

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立西唐津小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な学力向上対策により、学年が上がり担当担任教師が代わっても見通しを持って学習を進めることができた。ICTを効果的に活用し、「個別最適化学び」と「協働的な学び」を一体的に進め、「主体的、対話的で深い学び」の視点での授業改善に努める。 児童の心の交流を図る外部人材を活用した体験的学習等の積極的な取り組みにより、学校目標「ふるさと『西唐津』を愛し、心豊かに、たくましく生き抜く児童の育成」に近づいている。次年度も異学年交流や年間交流を活性化させ、児童の豊かな心の育成に努める。 薬剤師による防犯教室と薬物乱用防止教室、学校歯科医と連携した感染症対策、栄養教諭と連携した食育の取組など、人的物的資源を活用し健康安全教育を充実させることができた。次年度も、地域や学校内外のチーム学校の人材を的確に組み合わせ、教育効果を高める。 今年度新たに取り組んだオンライン社会科見学や世界各地、沖縄の学校とのオンライン交流等を広げ深めて、あらゆる教育活動において、ICTを活用して「個別最適化学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる取組を推進し、「学びの継続・発展」を図る。

2 学校教育目標	「人・もの・こと」に関わりを持ち 心豊かに育つ西唐津っ子 ～にこ・きび・はき・どん～
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>知：やる気⇒①子どもが活躍する授業づくり ②基礎基本と学習習慣の定着 ③学習規律と学習意欲の確立 ④新時代に対応した教育の確立 ⇒『学力向上に積極的に取り組みます』</p> <p>徳：ほん気⇒①温かい学校・学級づくりの推進 ②基本的な生活習慣の育成 ③特別支援教育の充実 ④体験活動の充実 ⇒『「人・もの・こと」に関わる心を育てます』</p> <p>体：げん気⇒①体力づくりの推進 ②健康指導の充実 ③食育の充実 ④危機管理体制の確立 ⇒『安全・安心な学校づくりに取り組みます』</p> <p>④家庭・地域・保小中・関係機関等との連携を推進する。「地域とともにある学校～チーム西唐津の推進～」</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善による学力向上対策。 ○補充学習による基礎基本の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ○個別最適化学びと協働的な学びを推進する唐津の学びスタイルチェックシートによる振り返り、平均3点以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的校内研修会等で、学びスタイルの進捗状況を確認する。また、他の学年と進捗状況を共有し、更なる取組の促進を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全校統一した学習の進め方が教員にも児童にも定着したことで、学年が変わっても、児童が見通しを持って学習できるようになってきた。 ・個別最適化学びと協働的な学びを推進する唐津の学びスタイルチェックシートによる振り返りでは、2、6であったが、教師同士が授業を見合うことで、授業づくりで高いステップを目指すことができた。 ・計算や漢字など定着しない児童が多い。チャレンジタイムや家庭学習などを工夫して繰り返し練習する態度を育てたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度において、学習規律が整っており集中して学習に取り組んでいることがよくわかった。 ・学力の個人差があるように感じた。同じ学年でも学力差が大きいと教える側も大変だと感じた。個別指導のあり方を今後検討していく必要があると感じた。
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ○教師一人ひとりが、「個別最適化学び」と「協働的な学び」を推進する授業づくり7つのポイント」に則り、これまで通りの授業改善を進める。 ○「出会って、かかわって、つくりあげよう～尊重し合う友だち関係づくりをめざして～」をテーマに豊かな心の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ●授業づくり1・2・3チェックシートで「ステップ3(深化)」の数を3つ以上とする。 ○学びのスタイルチェックシートすべての項目で「3」以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の教師の思いを大切にしながら、足並みを揃えたいところは揃え、学校全体として授業力・教育力を高めていく。 ・縦割り活動やボランティア活動を通してお互いを思いやる経験を積めるようにする。 ・「ほめほめカード」を書いて掲示したり、全校放送したりすることで児童のよさを認める温かい雰囲気作りをする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジタイムを授業・掲示したことで単元のゴールが可視化され、学習に見通しを持って取り組める児童が増えた。 ・全教員の足並みがそろい、授業改善に取り組んでいる。ICTの効果的活用が進んだが、異学年の結果等、児童の学力向上に十分に繋がっていないと感じる。 ・授業づくり1・2・3チェックシートでは、「ステップ3(深化)」の数が3つ以上の教員の割合が半分程度であった。授業づくり7つのポイントのさらなる理解が求められる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末を活用した学びが定着しており、個に応じた学びにつながると思えた。 ・画一した前向きな机配置ではなく、グループやコの字型など様々な形態で学習をしており、児童の主体的な学びができていくようである。
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○「心身ともたくましく西唐津の児童の育成」をテーマに運動習慣の改善と定着化。 ○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」をテーマに学校における食育を推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめアンケートや毎月月初めの「西小アンケート」の結果をもとにいじめの早期発見と見逃し0に努め、担任、生活主任、SC、SSW等と連携して迅速・適切に解決に当たり、再発防止に努める。 ○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)85%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の児童観察や毎月の「よい子アンケート」等で、児童の状況・状態の変化に気付く。 ・気になる児童については職員同士で密に情報交換を行う。 ・必要に応じてSCやSSWとも連携し、よりよい方向性を見出す。 ・地域の人々との交流を通して学ぶ体験活動を各学年、年3回以上実施する。 ・キャリアパスポートを計画的に活用する。 ・体育委員会からの放送や担任からの呼びかけを継続し外遊びを奨励する。 ・体育学習の工夫(カリキュラムの工夫)を行い、体育の授業や体を動かすことが好きな児童を増やす。とともに、健康観察カードによる健康管理に努める。 ・早寝、早起き、朝ご飯の取り組みを家庭と連携して行い、望ましい食生活を身に付けさせる。 ・定期的に食生活アンケートを実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめを見たり気づいたりしたら、止めるようにしたり、おとなに伝えたりしています」の質問に81%の児童が肯定的な回答をしていた。教職員、児童ともに「いじめを許さない」、「いじめを見たら、すぐに相談する」という風土が育っている。この1年間、早期発見、見逃しゼロに努めることができた。 ・1年間で地域の人々とかかわる体験活動や学年親子活動を計画することができた。児童は積極的に体験活動に参加し、笑顔で活動。意欲の維持を促していた。 ・「将来の夢や希望を持っている」の質問に81%の児童が肯定的な回答をしていた。キャリアパスポートの計画的・効果的な活用が今後の課題である。 ・「外で遊ぶ日は増えてきている」の質問に77%の児童が返しているという回答であった。外で遊ぶ子が増えてきて、教師も外で遊ぶという事を受け入れ、外遊びを奨励できた。 ・持久走大会、マラソン月間を12月に設け、昼休み終わりの10分間全校児童でランニングに取り組んだ。練習、大会共に多くの児童が真面目に取り組むことができた。 ・健康管理の一環として行ってきた就寝時間と朝ご飯の有無を調べたことで、体調が悪い児童を早期に見つけることができた。 ・栄養教諭による食育啓発「ばくばく通信」や給食センターによる「きゅんきゅんくわたり」を配布することで、児童と家庭の「食」に関する意識の上昇を図ることができた。 ・給食委員会によるマネーコントロールを行うことで、食事中のマネーについて考える機会を作ることができた。また、食育週間には給食に関する放送や動画の視聴に取り組むことで、給食への理解を促すことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、子どもが地域へ出かけ活動する機会が増えたので大変嬉しいと思います。コロナも取まってきたので、今後も一緒に活動する機会が増えていくことを望んでいます。 ・校区内外遊びができる場がありませんように感じます。休日も校区内で子どもたちが遊んでいる姿をあまり見かけません。子どもたちが安心して遊べる場をどれだけ提供していけるかが大人たちの課題になると思います。 ・今年度途中から、学校給食がセンター化されたというのは、時代の流れだとは思いますが、少し残念に感じました。調理する人であったり、給食の匂いがいたりという匂いがないのは子どもたちにも影響があるのではないかと思います。 ・食事のマネーについては、学校・家庭が連携していく必要があると感じます。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●時間外在校等時間の削減 ○業務の効率化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間(月45時間)の上限を遵守する。 ○個人ではゴールと優先順位、組織としては行事の精選と業務の削減に取り組む。効率化が進んだという職員を70%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週金曜日を定時退勤日とし、全職員で意識し、声を掛け合う。 ・校務サーバーを整理し、これまでの文書データを効率的・効果的に活用できるようにする。 ・校務を整理し、課題に対してチームとして対応できるようにする。 ・「あなたは業務の効率化を図るなどで、時間外在校時間月45時間以内を守っている」の質問に93%の職員が「できている」とお答えになっているという回答であった。校務サーバー内のデータを効果的に活用することができた。 ・各部会で次年度の行事計画をするにあたり、準備等の業務の買、得られる教育効果等について協議を行いながら年間計画を作成することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外在校時間月45時間以内の上限遵守については、87%の職員が遵守できていた。45時間を超える職員については、今後、業務量の過多にならないように調整していく必要がある。定時退勤日には、意識して早めに退勤できるように効率的に業務を行っていた。 ・「あなたは業務の効率化を図るなどで、時間外在校時間月45時間以内を守っている」の質問に93%の職員が「できている」とお答えになっているという回答であった。校務サーバー内のデータを効果的に活用することができた。 ・各部会で次年度の行事計画をするにあたり、準備等の業務の買、得られる教育効果等について協議を行いながら年間計画を作成することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の先生たちに気持ちの余裕がないと、子どもたちの教育にも影響すると思うので、今後も先生方が子どもに向き合う時間が確保できるように取り組みを継続してほしい。 ・業務内容がPC等を活用して効率化されているのは素晴らしいことだが、かえって業務量が増えているようなことにならないようにしていく必要がある。 ・ベテランから若手まで先生方の年齢差も大きいと思うが、共にに補い合って業務の効率化に努めてほしい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの充実と環境の整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学期初めに、児童の活動が見える教室環境を整える。 ○2学期以降に、特殊音節などのアセスメントを行い、必要な支援につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教室のまなびやすい環境作りを進める。特に特別支援学級においては、仕切り板の活用など個に応じた場の設定を行う。 ・アセスメントをもとに、必要な支援につなげていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級でも通常学級でも、それぞれの児童の特性等について理解し、個に応じた支援先へ繋がり支援方法を工夫したことができた(8割程度)。 ・特別支援教育に関する研修や実になる子研、ケース会議等を通して、特別支援教育や児童についての理解をより深めることができた。 ・支援の必要な児童の保護者や職員の理解がまだ十分でないところがある。話し合いや研修を通して充実を図る必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別に配慮を要する児童への対応は、難しいと感じる。様々な特性を持った児童に対して、その子に応じた支援をすることは、大切だと思うが、学校だけでは難しい面もあるだろうと思う。医療や外部の専門機関等と連携して対応してほしい。
○地域連携・幼保小中連携	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校9年間の一貫した授業形態による小中連携の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「授業づくり1・2・3」を活用した主体的・対話的な学びを取り入れた授業を実施したと答えた教員80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校との連携は9年間というスパンを見据えながら計画を立て、内容の充実も図っていた。 ・年3回以上、小中交流会を実施し、「授業づくり1・2・3」を活用した主体的・対話的な学びを取り入れた授業を公開する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「あなたは授業づくり1・2・3を活用した主体的・対話的な学びを取り入れた授業を実施している」の質問に2%の教員が肯定的な回答をしていた。成果指標はほぼ達成したが、ほとんどの教員が指導法改善の意識を持って取り組んでいた。 ・幼保小の連携を深め、低学年の生活上の課題について、就学前協議と情報共有で早期の対応を考慮するために、1月に園を訪問し、乳児入園児童の母や先生方と話し合いを行い、詳しく聞き取りを行った。 ・年間3回の小中交流会を通して、指導法の工夫改善や、家庭学習の取組等について共通認識を持つことができ、児童生徒への指導に繋ぐことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校9年間という義務教育期間でどれだけの学力を身に付けることができるかというのは、大人になるための大切なことだと感じる。同じ校区内に1つの小学校、1つの中学校で人間関係も変わらないからこそ、これからも中学校と連携して、児童生徒への対応を行ってほしい。

●...県共通 ○...学校独自 ○...志を高める教育	<p>5 総合評価・次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に向け全校統一した組織的な取り組みを実施できたことで、学年が変わっても、児童が見通しを持って学習できるよう体制を整えることができた。今後は、更にICTを有効的に活用していきたい。「個別最適化学び」と「協働的な学び」を一体的に進め、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善に努めていく。 ・今年度において外部人材を活用し、地域に根拠した体験的学習活動を実施することができた。学校目標である「人・もの・こと」に関わりを持ち心豊かに育つ西唐津っ子の育につながる。次年度も地域的人的・物的資源を探り、体験的学習活動を実施することを通して、児童の豊かな心の育成につながる。 ・保健体育部を中心に校内持久走大会や防犯教室、歯みがき指導等、保健・体育の行事の取組を計画的に実施することができた。また、「食」においても栄養教諭を中心に授業に関する指導を受けることができた。次年度も引き続き児童の体力づくりの推進、健康指導・食育指導の充実と努めていく。 ・業務改善・教職員の働き方改革については、教職員一人一人の意識改革のとも、組織的に実行することができている。教職員の年齢差が大きく、若手教職員も多くなることを踏まえて、今後は更に「チーム西唐津」づくりと、児童の育成のために組織的に対応していく。 ・校区内3園や中学校との交流を通して、保小中情報共有し、連携を推進することができた。今後も引き続き、連絡を密にしていながら、児童が安心して学校生活を送ることができるよう体制を整備していく。
------------------------------	---